

平成30年度まちづくり提案制度（松山市民活動推進補助金 次世代育成支援事業）採択団体

松山市では、市民が自主的、自発的に市民活動に参加できる環境づくりに取り組んでいます。

平成30年度は、以下9団体が採択されました。

◆平成30年度採択団体

平成30年6月16日（土） 公開プレゼンテーション審査会実施

団体名	代表者	補助事業の内容等
SSDプロジェクト 松山	愛媛大学3年 浅海 咲彩	<b>SSD80～楽しく幸せに歳を重ねよう！プロジェクト～</b> 松山市のシニアの皆さんに生き甲斐をもって楽しく幸せに歳をとっていただくために、シニアの皆さんが、楽しくやりがいを実感できる活動を提案し、実施する。また、シニアの皆さんの健康保持増進に貢献し、各地区に少しずつでも広がることによって、シニアと若者サポーター（関係人口）の共創が、シニアが幸せを実感できるまちづくりのきっかけとする。
#びあくらぶ	愛媛県立 医療技術大学 2年 坂本 優香	<b>思春期の人を対象とした「ピアカフェ」</b> 思春期の人たちは、成長過程で「自分とはなんだろう」と悩んだり、考えたりする人が多くいます。また、体やセクシャリティーの正しい知識を持っている人が少なく、相談できる大人も少ないため、必要以上に悩んだり、性的なトラブルに合うことがある。そこで、同世代の思春期の人を対象に、自己肯定感を高め合ったり、セクシュアリティについての正しい知識を伝えることを目的に無料カフェを定期的開催する。その中で性についての正しい知識を伝えてく。
松山北高校生徒 会地域おこし Working Team	松山北高等学校 教諭 高橋 淳	<b>『ごごしま検定 2018』の作成による興居島の魅力発信と Civic Pride の喚起</b> 『ごごしま検定』を通して興居島の魅力を多くの人に知ってもらう。また、島民の人にもふるさとの魅力を再認識してもらい、ふるさとへの愛着や誇りをもってもらう。上級検定合格者には「ごごしまイスター」の称号を授与し、「興居島の語り部」として、広報役を務めてもらう。これらの活動により、移住者やUターン者、島への訪問者が増加し、人口減少抑制や地域社会・経済の活性化につなげてく。
松山市立中島中 学校「顔晴るイレ ブン」	中島中学校 教員 村上 二郎	<b>つながる笑顔の輪～三世代交流プロジェクト～</b> 少子高齢化が進む「ふるさと中島」に旧市内の子どもたちを招き、島内の高齢者の方々と交流する場（アソビバ）を設けることで、島内だけでなく、島外の人とのつながりができる。また、高齢者の方々の活躍の場を広げると共に、この活動を通して生まれたつながり、交流を通して、また中島に来ようというきっかけを作る。

松商地域ビジネス科	松山商業高等学校 教員 池上 陽人	<p><b>子供の成長を地域みんなで祝いしよう</b>  <b>～松商の地域ビジネス科にもお祝いさせてください～</b>      各家族化や一人親、共働き家庭の増加にともない、昔から行われてきた子供の成長をお祝いする行事を行う機会が減少し、これまで受け継がれてきた伝統や文化が、消滅してしまう。そこで、地域のお年寄りに教えてもらいながら、地域の子供たちの成長をお祝いする手伝いをする。</p>
MBC DESIGN LAB	松山ビジネスカレッジ 学科長 吉田 安彦	<p><b>イチョウアートプロジェクト～城山公園(堀之内地区)を活用した新たなアートイベントの創出～</b>      専門学校で学んでいるデザインの力を活用し、城山公園での清掃活動によりイチョウを集めたゴミ袋にシールやペンでデコレーションするアートプロジェクトを行う。そして、集めたイチョウを利用して布と糸を染色し、作品を城山公園の広場に展示するアートイベントを行う。また、アート展の周知を図るとともに、城山公園で開催される継続的なイベントや新たな地域のブランドを創出する機会へと活動を発展させる。</p>
STS13 with K	松山東雲短期大学 教員 皆川 勝子	<p><b>久米っ子わくわくクッキング</b>      栄養士を目指す大学生と小学生が、栄養バランスを考えた郷土料理を一緒に作って食べることにより、自分や友人・家族の健康に関心を持ち、思いやりを持って正しく行動できる子どもたちが増える。また自分たちが暮らしている松山市のことを郷土料理作りを通してより深く理解することによって、松山市で暮らし続けたいと考える子どもたちが増え、地域コミュニティの構築を図る。</p>
wakuwaku-youth	愛媛大学3年 乾 慈深	<p><b>フェアトレードコーヒー2000杯プロジェクト</b>      誰でも気軽に参加できる国際協力がフェアトレードです。松山市にも様々な国の方が生活している今、フェアトレード啓発運動を行うことで松山市の皆さんに広く世界を知ってもらうきっかけとする。</p>
三津浜お茶クラブ	茶道教室ボランティア、三津浜校区子ども会育成者 門田 眞知江	<p><b>お茶のふるまいを通じた世代間交流</b>      ・茶の湯や句会が盛んだった三津浜の伝統を伝えることができる。      ・お茶のふるまいを通して、私達子どもと地域の高齢者や大人が触れあうことができる、やさしい心を育む。社会貢献に努める。</p>

最も学生審査員の応援が多かった団体

…SSD プロジェクト松山